

まつかわ太陽の会
清一 竹村幸宏 原田 西尾明廣
名北 宮澤正典 中荒町 矢澤勇
東浦 松本朗彦 羽場 宮沢朋文

3年と9カ月経過した宮下町政!!

● 「大危機！児童生徒数10年間で24.4%減」に、 危機感無く、全く無関心な宮下町長!!

高森町：0.7%減、豊丘村：5.6%減、喬木村：11.7%減、
飯田市：14.4%減、大鹿村：7.8%減、中川村：1.7%増。

- ・全く危機感がない宮下町長!!
- ・経済的理由で町一番古い建物の中で、今後20年以上勉強させようとする、子供を大事にしない宮下町長!!
- ・子供たちの減少を放置する宮下町政!!

● デタラメ！元気センター新築計画!!

- ・2億円が6.6億円に!!
- ・新築変更理由、「ライフサイクルコスト(LCC)」はどこへ?
- ・何億かかるか、いつ出来るか分からない、令和5年5月の着工!!

● 支離滅裂!! 旧青年の家再利用計画

- ・支離滅裂!!年額550万円の委託費?
- ・「委託費、改築費、将来の解体費全て0円」の地元企業の申し出を蹴った宮下町長!!
- ・「壊す」と言い出し、4年かけて、元に戻った旧青年の家再利用

● 県道上片桐停車場線バイパスの 重要性が理解できない、やる気のない宮下町長!!

- ・「工事計画は生きている」と言う飯田建設事務所、「中止になった」と言う宮下町長
- ・「県道上片桐停車場線バイパス」を要望せず、放棄した宮下町長
- ・児童生徒数24.4%減対策の具体化に重要な、県道上片桐停車場線バイパス!!
- ・前河原道路より優先すべきは「県道上片桐停車場線バイパス」!!
- ・県道バイパス工事(県道停車場線付替え工事)の重要性を理解できない宮下町長!!

● 不正入札を容認する宮下町長!!

- ・不正入札の温床、「設計委託業者設計額=落札予定価格」について、「この程度のリスクは当たり前だ」と言い、不正を正そうとしない宮下町長!!
- ・町民には公取へ「訴えた」と言い、裁判では「問題無い」と言う、町民を欺く宮下町長!!
- ・住民訴訟和解案を蹴る不可解な宮下町長?!
- ・早く終わらせたい原告!!長引かせる宮下町長!!

● アドバイス料2年間で1,531万円! 県住宅供給公社への無駄遣い!!

- ・責任逃れをする為の無駄金!!
- ・県住宅供給公社アドバイスの弊害!!

● 普通ではありえない! 宮下町長自宅前4,100万円道路工事!!

- ・町民感情を全く考えない、「コロナ禍対策補助金申請」・「町長の部屋」に続く暴挙!!

● 恥ずかしく、情けない就任3年9カ月後の宮下町長発言

- ・宮下町長:「3年半かけて、住民の声を聴く町政にした。」(9月定例会)
⇒未だかつて、「住民の声を聴かない」と言った町長はいません。
- ・宮下町長:「町に対する思いや行動力は誰にも負けない。」(12月定例会)
⇒あなたは4年間で5,900万円、役場一番の給料を取る最高責任者で、当たり前の話です。

● 役場職員をダメにする宮下町長! 日本一の職場はどこへ?

- ・役場職員のやる気を無くす県への派遣依頼!!
- ・4年間、何もしなかった日本一の職場づくり!!

● モラルも品性も無いプチ独裁者? 宮下智博町長の本性!!

- ・追及を逃れる為にまちづくり懇談会のルールを変えた宮下町長!!
- ・商工会長の批判意見に「商工会の補助金見直しをする」と恫喝した宮下町長!!

● 子供を人質にとる!! 卑劣な脅迫文のその後

- ・同一人物と思われる3つの町長を応援する匿名文!!
- ・脅迫文を容認し、頑なに犯人を隠そうとする宮下町長!!

※ 私達は自身の実名を載せ、意見広告を出しています。この意見広告は私達が事実を調べ、真実を追究した上での意見書です。町民の皆様には、この意見広告の内容が嘘か真実か、ご自身で確認しご判断いただきたいと思ひます。

●「大危機！児童生徒数10年間で24.4%減」に、 危機感無く、全く無関心な宮下町長!!

資料1は令和4年7月19日付信濃毎日新聞の「2010年と20年の市町村ごとの小中学校の児童生徒数の増減」の記事です。資料2はこの記事より作成した伊那谷(辰野町～阿智村)の増減率の表です。

資料1：令和4年7月19日付信濃毎日新聞

資料2：伊那谷の児童生徒数の増減率表

新聞記事のスクリーンショット。見出しは「小中学生100万人 3000校減」。記事内容は、2010年から10年間で小中学生の数が100万人減り、学校数が3000校減ったと報じています。また、伊那谷(辰野町～阿智村)の児童生徒数の増減率表の一部も表示されています。

市町村名	2010年児童生徒数	2020年児童生徒数	増減率
宮下町	948人	814人	(2)
松川町	1303人	985人	(3)
高森町	1273人	1264人	(3)

市町村名	2010年児童生徒数	2020年児童生徒数	増減率
辰野町	1,779	1,424	- 20.0%
箕輪町	2,245	2,036	- 9.3%
南箕輪村	1,413	1,501	6.2%
伊那市	6,237	5,401	- 13.4%
宮田村	948	814	- 14.1%
駒ヶ根市	3,092	2,622	- 15.2%
飯島町	802	649	- 19.1%
中川村	412	419	1.7%
大鹿村	64	59	- 7.8%
松川町	1,303	985	- 24.4%
高森町	1,273	1,264	- 0.7%
豊丘村	648	612	- 5.6%
喬木村	609	538	- 11.7%
飯田市	9,332	7,990	- 14.4%
阿智村	627	547	- 12.8%
合計	30,784	26,861	- 12.7%

資料2から分かることは、**松川町の24.4%減は最悪値だという事**です。

近隣の高森町は0.7%減で、中川村は1.7%増です。

松川町は高速のインターチェンジを有し、JRの駅も2つあり、地形的にも高森町、中川村と比べ劣っていません。しかし、児童生徒数の減少に関しては大幅に負けています。

この差は、**松川町が子供達に関する政策を怠っていた為**でしょう。

【全く危機感がない宮下町長!!】

宮下町長は、7月19日付信濃毎日新聞に衝撃記事が出た2ヵ月後、令和4年9月22日の「上片桐区 町政懇談会」で、区会からの「少子化の現状認識と対策」についての質問(参考：令和4年度町政懇談会の懇談事項について：まつかわ太陽の会資料室：以下資料室)に対して、まるで人ごとのように、「町がこのまま何も対策を講じなければ減少するだろう。」と言い、対策としては第5次松川町総合計画〔改訂版〕の**従来通りの抽象的な対策を示すだけで具体案は全く示しませんでした。**(参考：令和4年度 上片桐区 町政懇談会町側答弁書5,6頁：資料室)

今までの松川町総合計画が機能していたなら、10年間で児童生徒数が高森町：0.7%減、中川村：1.7%増に対して、松川町が24.4%減になるはずはないと思います。

【経済的理由で町一番古い建物の中で、今後20年以上勉強させようとする、子供を大事にしない宮下町長!!】

令和4年9月22日の「上片桐区 町政懇談会」で地元町議から「北小は町で一番古い建物であるが、いつまで使うつもりか?」という質問に対して、「20年以上は使用したい。」と答えています。

同年10月4日、竹村幸宏がこの事について小平教育長に、「町で一番古い築約60年の建物を今後20～30年使用するという話は本当ですか?」と質問したところ、「その通り。理由はエアコンを取り付け、照明をLEDに変え、トイレを洋式便器にし、お金をかけたから。」という回答でした。

エアコンも、LEDも補修部品は10年までです。全くおかしい話です。

竹村が「それでは築80～90年の建物に子供達を入れておくのですか。13年前に耐震工事は行われているとしても、今後20～30年後の耐震性能の検証は出来ているのですか?」という質問に対して、小平教育長から明確な回答はありませんでした。

現在の耐震補強の基準値は13.5N/㎡以上だそうです。平成10年北小学校、平成21年中央小学校の耐震診断時のコンクリート強度試験のデータは14N/㎡台だったのです。(参考：意見広告5の16頁、意見広告6の3頁：資料室)

北小学校、中央小学校が建築された昭和40年頃のコンクリート強度は18～21N/㎡だったそうです。30～40年経過した躯体のコンクリート強度は23%～33%落ちたのです。

耐震工事はその時の建築基準法をクリアするための工事であって、その後、どれだけ保つか保証する工事ではないそうです。

以上より、宮下町政の「今後20～30年は使う、築80～90年使う。」という話には、耐震性の安全については何の裏付けもないことなのです。

＜24.4%減の対策として大切な子供達にすべきことは、

まず、北小学校を建て替え、次に中央小学校を新築にするべきです。＞

何故、大事な子供達を町で一番古く、生徒数が現在の2倍以上だった時の規模の合わない建物に入れておくのでしょうか。それにもかかわらず、宮下町長は耐震性が全く問題ない建物を壊して莫大な資金を投入して元気センターの新築工事を始めています。

この様な宮下町長に、子供達の事を論じる資格はありません。

【子供たちの減少を放置する宮下町政!!】

小平教育長は令和4年10月4日、安全性を迫及する竹村に対して、「竹村さんは統合賛成派か?」と言い出したのです。

竹村は「統合の話ではなく、町で一番古い建物に今後20～30年、子供達を入れておくのが論外であり、子供達の安全を最優先させるべきで、一番古い北小を建て替えし、続いて次に古い中央小の建て替えでしょう。ところで、町は統合について何か検討しているのですか?」と質問したところ、小平教育長は「考えていない」という回答でした。

しかし、宮下町政の本心は、児童生徒数24.4%減を放置し、規模が合わなく、耐震性が担保されない町で一番古い建物に、このまま子供達を20年～30年入れ続け、子供達の減少を待ち、統合時期を待つという事なのではないでしょうか。

● デタラメ！元気センター新築計画!!

【2億円が6.6億円に!!】

資料3は令和4年8月23日、議会全員協議会の資料です。

資料3：令和4年8月23日、議会全員協議会の資料

資料1-2

建設工事費概算費用比較

1.総括
建設工事費算定根拠はR4.8.1時点とする

名称	プロポーザル時 (R3.11.29)	中間提示時 (R4.3.13)	基本設計最終案 (R4.8.4)	当初より増加額	当初比
本工事	318,000 (349,800)	447,674 (492,441)	442,140 (486,354)	477,955 (525,750)	159,955 (175,950)
付帯工事	38,700 (42,570)	48,205 (53,025)	48,205 (53,025)	50,166 (55,183)	11,466 (12,613)
合計	356,700 (392,370)	495,879 (545,466)	490,345 (539,379)	528,121 (580,933)	171,421 (188,563)

139,179千円増額 (153,096千円増) 5,534千円減額 (6,087千円減額) 37,776千円増額 (41,554千円増額)

2.主な増減理由と金額

- 廃止新築(住棟変更)による 87,100千円 (193,619千円)
- 物価上昇による 16,600千円 (18,360千円)
- 国交省概算基準での計上・安全対策による 81 30,811千円 (23,082千円)
- 分譲売上の差 21 21,818千円 (55,000千円)

3.増減項目の細目

- 増減項目一覧表のとおり

4.分譲売上の差

- 建築主体工事 323,796千円 (390,116千円)
- 電気設備工事 106,196千円 (110,895千円)
- 機械設備工事 77,342千円 (83,076千円)
- 造成工事 20,706千円 (23,818千円)

〔580,933〕

1.総括
※概算工事費算定根拠はR4.8.1時点とする

(単位:千円、()内:税込)

名称	プロポーザル時 (R3.11.29)	中間提示時 (R4.4.11)	中間提示時 (R4.5.13)	基本設計最終案 (R4.8.4)	当初より増加額	当初比
本工事	318,000 (349,800)	447,674 (492,441)	442,140 (486,354)	477,955 (525,750)	159,955 (175,950)	150%
付帯工事	38,700 (42,570)	48,205 (53,025)	48,205 (53,025)	50,166 (55,183)	11,466 (12,613)	130%
合計	356,700 (392,370)	495,879 (545,466)	490,345 (539,379)	528,121 (580,933)	171,421 (188,563)	148%

580,933(千円)

この時点での概算工事費は、既に実行した設計料・解体費：5,751万円と、資料3にある基本設計最終案：5億8,093万円の合計：6億5,984万円です。

平成31年4月就任時なら2億円で出来た元気センター(1,224㎡)が、令和4年8月時点で6億6,000万円(1,000㎡)になってしまったのです。

実に、面積は2割減り、工事費は3.3倍になったのです。

【ライフサイクルコスト(LCC)はどこへ?】(参考：意見広告13の2～9頁：資料室)

宮下町長は、現在の6億6,000万円の新築工事に関し、改築から新築に変更した理由であったライフサイクルコスト(LCC)について全く示していません。

令和4年4月時点での、深津前町長案：初期投資：2億5,080万円のLCC：1,752万円に対して、**現在の6億6,000万円の新築工事のLCCは2,117万円で、20%高くなっています。**(参考：ライフサイクルコスト算定表：資料室)

宮下町長は都合が悪くなったので、最大の変更理由ライフサイクルコスト(LCC)を隠したのでしょう。町民を欺く酷い話です。

【いくらになるか分からない?令和5年5月の最悪着工!!】

現在の工事費：6億6,000万円ですが、現在の物価上昇の中、宮下町長の着工予定令和5年5月までに建築単価も上昇し、工事費が数千万円増加するはずです。**きっと、7億円以上の工事費になることでしょう。宮下町長がウロウロしていた為、馬鹿げたことになってしまったのです。**

宮下町長就任から4回予算が増額され最終の工事費は未定の中、

元気センターの計画が進んでいます。

この様なデタラメは、松川町政史上初めてのことでしょう。

● 支離滅裂!! 旧青年の家再利用計画

【支離滅裂!!年額550万円の委託費】

宮下町長は就任時から年額150万～300万円かかる維持費を問題にして解体すると言いつつ、何が何でも解体しようとしたのですが（参考：意見広告8の5～9頁、意見広告11の8～12頁：資料室）、令和3年3月、解体費が予定の1億4,000万円を遥かに超えて、2億円を超えることが分かり、深津前町政の改修利用方針に戻したのです。（参考：意見広告12の6～7頁：資料室）

しかし、今回行われた「旧青年の家施設管理運営事業者募集のプロポーザル審査」の条件に年額550万円の委託費を町が支払うことが入っています。あれ程こだわった維持費問題はどこにいったのでしょうか。おかしい話です。

【「委託費、改築費、将来の解体費全て0円」の地元企業の申し出を蹴った、宮下町長!!】

資料4は令和3年1月15日、解体しようとした宮下町長に対して、解体に反対していた地元企業が従来の青年の家の目的である「青少年に団体宿泊訓練を通じて、職業的、文化的、体育的な各教育事業を行う。」を維持し、災害時には施設のほとんどの部分を避難所として町に提供するという企業の社会的責任(CSR)を目的とした要望書の一部です。

この提案のコンセプトは、町の「旧青年の家施設管理運営事業者募集のプロポーザル審査」条件とほぼ同じ内容でしたが、大きな違いは、この提案では町の負担が「委託費：0円、改築費の町負担：0円、将来の解体費：0円」になる内容でした。

具体的には、「屋根の改修とアスベスト撤去を終えた状態で無償提供をしてもらえれば、残りの改修費(約1億円)、将来発生する改修費および解体費など全ての費用はこの企業が負担する。」という内容でした。（参考：要望書：資料室）

資料4：令和3年1月15日付、地元企業の要望書の一部

1. 旧松川青年の家本館棟を「屋根の改修とアスベスト撤去とそれに係る改修工事」（県の補助金を利用する）を終えた状態で当社に無償で払い下げてください。他の工事（内装、電気、設備工事等）は当社の負担で実施致します。

3. 以上より、松川町はランニングコスト及び最後の廃棄費用を負担せず、災害時の様々な避難生活に対応できる避難所を確保できます。

同年3月31日、宮下町長の歪めた情報提供により、「地元企業がタダでもらいレンタルオフィスで金もうけをしたいと言っている。」という趣旨で信濃毎日新聞に掲載されました。この時、宮下町長はこの企業に新聞社に話すことについて了解を取っていませんでした。(参考：新聞記事：資料室)

結局、この宮下町長の嫌がらせに憤慨した地元企業は当該要望書を撤回したのです。(参考：通知書：資料室)

もし、町がこの提案を受け入れていれば、10年間毎の委託費：5,500万円、補修費、最終の解体費：2億円が必要無くなったのです。

また、長野県の補助金1億4,000万円も、7,000万円位で済んだはずです。

宮下町長は、自身を批判する企業に嫌がらせをし、要望書を潰して喜んだと思いますが、愚かなことをしたのではないのでしょうか？

【4年かけて、元に戻った旧青年の家再利用】

宮下町長は旧青年の家をありとあらゆる手段を取って解体しようとしたのですが(参考：意見広告8の5～9ページ、意見広告11の8～14ページ：資料室)、結局、2年の時間と約900万円の無駄金(建物診断費、アスベスト調査費、委員会費)を費やした末に、深津前町長の県補助金内で利用するという元の案に戻ったうえに、更に2年かけても利用できないというばかげたことになってしまったのです。(参考：意見広告12の6～8頁：資料室)

● 県道上片桐停車場線バイパスの重要性が理解できない、やる気のない宮下町長!!

資料5は令和3年8月25日、県道上片桐停車場線バイパスの住民説明会の資料です。

資料5：令和3年8月25日、県道上片桐停車場線バイパスの住民説明会の資料

③上片桐地区の通過交通量の低減

主交通を上片桐(停車場)バイパスに誘導し、広域農道の交通量の低減を図る

➢ 新設道路が主道路となり、広域農道とはT字の交差点となります

(松川大橋から眺む)

15

【「工事計画は生きている」と言う飯田建設事務所、「中止になった」と言う宮下町長】

宮下町長は、議会および上片桐町政懇談会で、県道バイパスと農免道路を松川沿いに結ぶ「県道上片桐停車場線バイパス」が中止になり、その代わりに、現在の県道バイパスが直進するルート「県道バイパス先線」を自らが進めているようなことを言っています。

しかし、飯田建設事務所は令和4年3月、先線に関する測量の説明の際、地権者に「県道上片桐停車場線バイパス計画は無くなっていない」と明言しています。

また、飯田建設事務所は昨年リニア残土問題で「県道上片桐停車場線バイパス」が問題になった時も、「中止になった」とは一度も言っていない。

【「県道上片桐停車場線バイパス」を要望せず、放棄した宮下町長】

宮下町長は、一昨年9月の議会で「県の建設部と一緒に地権者にお願いに行く」と言っていたが、一年以上経ちますがそのような動きは全くありません。

現在、宮下町長は「『県道バイパス工事先線』だけを要望する」と言って、「県道上片桐停車場線バイパス」を放棄しています。

飯田建設事務所の話によると、「県道バイパス先線」はリニア開通後の十数年後のようです。

松川町は、「県道上片桐停車場線バイパス」と「県道バイパス先線」の両方を、県に要望すべきだと思います。

【児童生徒数24.4%減の具体策としての「県道上片桐停車場線バイパス」の重要性!!】

「松川町児童生徒数24.4%減」の具体策は、まず、一番古い北小学校の建て替えですが、それと同時に、北小学校の周辺に庭付き、畑付きの1区画450㎡～500㎡で300万円位(2万円/坪)の、100戸程度の子育て用住宅の団地をつくることです。

この住宅団地の候補地の一つが、上片桐の県道バイパスと農免道路に挟まれた構造改善の場所です。この場所は北小、上片桐保育園、改善センター、町営グラウンド等に近く、東向きのひな壇状態で、二つのアルプスも見えて景色も大変良いところです。また、外から見たこの団地も良い景色になることでしょう。

この団地の子供達を、より安全に、また、北小との一体感を出すために、通過するだけの車両を西側の県道バイパスへ回す必要があります。そのためには「県道上片桐停車場線バイパス」が必要かつ重要なのです。また、現在の「県道上片桐停車場線バイパス」の目的も子供たちの安全を確保するためだったのです。

北小の建て替えが終わり次第、続いて中央小学校の建て替えと、面積と単価については北小周辺団地とのバランスを検討する必要があると思いますが、周辺での庭付き、畑付きの100戸の子育て支援用住宅団地をつくるべきです。

【前河原道路より優先すべきは「県道上片桐停車場線バイパス」!!】

現在、町は「前河原道路」をリニア残土を利用してつくる計画をしていますが、「県道上片桐停車場線バイパス」もリニア残土を利用しての計画です。また、使う残土の量もほぼ同じ位です。

どう考えても、「県道上片桐停車場線バイパス」が先で、「前河原道路」は後です!!

<意見広告12の「白紙になった」について>

私達は、令和3年7月7日、第16回松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会での、「県道上片桐停車場線バイパス新設工事は、運搬台数の低減により、県単事業の実施は困難」(リニア工事に対する必要性が無くなった。)という町からの報告から判断して、意見広告12で「県道上片桐停車場線バイパス」は白紙になったと報告しました。(参考：意見広告12の10～11頁：資料室)

実は、同年8月25日に飯田建設事務所の説明会があったのですが、この時、飯田建設事務所から同工事は未定という話はありませんでしたが、工事計画が無くなったとは言わなかったのです。

その後、令和4年7月19日の「児童生徒数10年間で24.4%減」の新聞記事を見ることとなり、「県道上片桐停車場線バイパス」の重要性を認識することとなりました。

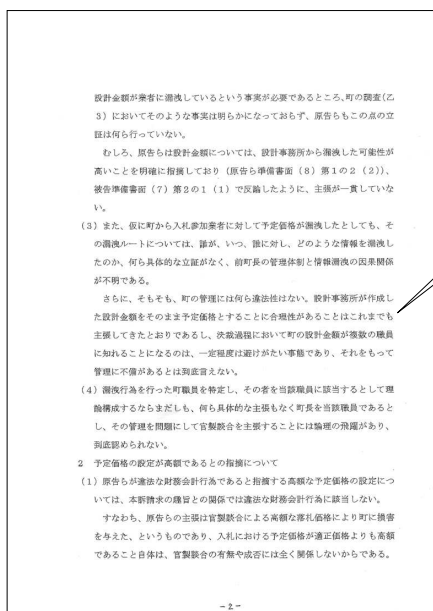
安易に「白紙になった」と意見広告12に記載したことを反省しています。

● 不正入札を容認する宮下町長!!

【不正入札の温床、「設計委託業者設計額=落札予定価格」について、「この程度リスクは当り前だ」と言い、不正を正そうとしない宮下町長!!】(参考：意見広告9、11、12：資料室)

宮下町長は「設計委託業者設計額=落札予定価格」について、令和4年7月8日付、令和2年(行ウ)第5号 損害賠償(住民訴訟)請求事件 準備書面(8)で、「決済過程において町の設計金額が複数の職員に知れることになるのは、一定程度は避けがたい事態であり、それをもって管理に不備があるとは到底言えない」と主張しています。(資料6)

資料6：令和2年(行ウ)第5号 損害賠償(住民訴訟)請求事件 準備書面(8)の一部



さらに、そもそも、町の管理には何ら違法性はない。設計事務所が作成した設計金額をそのまま予定価格とすることに合理性があることはこれまで主張してきたとおりであるし、決済過程において町の設計金額が複数の職員に知れることになるのは、一定程度は避けがたい事態であり、それをもって管理に不備があるとは到底言えない。

しかし、松川町財務規則109条において、松川町長が上限価格である予定価格及び下限価格である最低制限価格を決定したときには、予定価格調書を作成し、封筒に入れて封印し、保管しなければならないと規定されています。

これは、入札前に落札予定価格を知るものは松川町長のみとすることで、情報漏洩を防ぎ、適正かつ公正な入札を担保しているのです。

実際に、深津前町長が執行した平成27年6月26日の「中央公民館改築・チャンネル・ユー・平成28年度局舎建築工事」以前は、上記の松川町財務規則109条の規定は遵守されていたし、現在も存在しています。

宮下町長の主張は、もはや開き直りにもとれ、適正かつ公正に行われるべき行政の入札執行のあり方を軽視するものであり、全くの暴論です。

【町民には公取へ「訴えた」と言い、裁判では「問題無い」と言う、町民を欺く宮下町長!!】

(参考：意見広告9、11、12：資料室)

宮下町長は令和2年6月22日付、「エアコン設置工事入札に関する調査報告書」の結果から、複数の関係者が落札予定価格を知り、情報漏洩や不正行為の疑いが判明し、公正取引委員会に「通報」することが妥当であるという調査報告を受け、公正取引委員会へ「通報」しました。

一方、裁判では一貫して問題ないと反論し、全く正そうとしません。

このままでは、町の入札の公正さを棄損し不正入札の温床を放置するだけでなく、多くの役場職員が入札前に落札予定価格を知り、「刑務所の塀」を意識して仕事をする事になり、精神的に大きな負担になっているはずです。とても、町長が目指す「日本一の職場」ではありません。

【住民訴訟和解案を蹴る不可解な宮下町長?!】

住民訴訟は「被告宮下松川町長に深津前町長が行った小中学校エアコン設置工事で不当に得た利益をA、B、C社から取り戻すことを求める。」という訴えです。

これに対し、令和4年5月、「白黒をつけず、50年間分の図書費を学校に寄付するという和解案」が出ましたが、被告のB社、C社は和解案に合意したのですが、宮下町長とA社が合意しなかった為、不調に終わりました。これも大変おかしい話なのです。

B社、C社が和解案を受け入れても宮下町長に何の責任が発生するわけではありません。むしろ、今後50年間の図書費が確保でき、訴訟も終わり大変良い話のはずです。しかし、宮下町長は寄付の受け取りを拒否し、訴訟では当該入札は問題無いと主張し続けています。

令和4年11月、宮下町長との面談で和解拒否の理由について質問したところ、「裁判中なので答えられない」と言って、答えませんでした。

**宮下町長は「何のため」に「誰のため」に頑張っているのでしょうか?
非常に不可解です!!**

【裁判を早く終わらせたい原告!!長引かせる宮下町長!!】

この問題は宮下町長就任直後の令和元年6月29日から始まっています。(参考：意見広告9の13頁：資料室)

この時、宮下町長が同年8月9日、約束通り不正を正す姿勢を示し、せめて、業者に警告を行い、「設計委託業者設計額＝落札予定価格」を止め、平成27年以前の状態に戻すことをすれば、その後の住民監査請求も無く、住民訴訟も必要無かったはずですが。

しかし、宮下町長は「単なる数字で問題ない。追及すると訴えられる」と言い出したのです。

その後、住民監査請求、住民訴訟に進む中、新たに判明した不正の証拠を示しつつ、まちづくり懇談会などで「私達は刑事告訴をしたい訳ではなく、税金が戻れば良い。」ということ伝えてきました。

しかし、このことについても、宮下町長は一切耳を傾けたことはありませんでした。

上記の和解案の話も私達が早く收拾し、終わりにしようという考えの一つだったのです。

宮下町長がこの和解案を拒否したため、裁判は長引き訴訟費用が増えるだけです。

これも宮下町長の愚かな選択でしょう。

● アドバイス料2年間で1,531万円！ 県住宅供給公社への無駄遣い！！

【責任逃れをする為の無駄金!!】

宮下町長は令和2年2月から、役場に専門家がいないのでという理由で県住宅供給公社に町の工事のアドバイス料として、1,531万円支払っています。(資料7)

資料7：令和4年10月3日付、情報公開による県住宅供給公社に関する資料の一部

情報公開請求 県住宅供給公社に関する資料7-2						
請求① 令和1年から現在までに発注した案件	No.	年度	件名	担当課	備考	枚数
1	1		まつかわの里室内温水プール改修工事に係る設計技術支援業務	産業観光課	199,100	3
2	2		小中学校照明LED化改修にかかる基本調査業務	こども課	1,820,000	9
3	2		小中学校トイレ改修工事に係る支援業務	こども課	2,266,000	8
4	3		元気センター(仮称)建設に係る技術支援業務	保健福祉課	1,683,000	6
5	3		旧松川青年の家改修工事に係る設計支援業務	産業観光課	454,300	7
6	3		学校施設等長寿命化計画に係る資料作成業務	こども課	606,100	9
7	3		小中学校照明LED化改修に係る支援業務	こども課	680,900	9
8	3		小中学校トイレ改修工事に係る施工監理支援業務	こども課	1,288,000	7
9	4		元気センター(仮称)建設に係る技術支援業務	保健福祉課	1,893,000	6
10	4		旧松川青年の家長寿命化改修工事に係る設計支援業務	産業観光課	984,500	9
11	4		松川北小学校照明LED化改修工事に係る施工監理支援業務	こども課	493,000	7
12	4		小中学校照明LED化改修工事に係る施工監理支援業務	こども課	1,060,900	7
13	4		中学校昇降口バリアフリー化改修工事設計監理業務	こども課	292,600	5
14	4		図書館資料館改修工事建築技術支援業務	生涯学習課図書部	1,661,000	12
					15,310,900	合計 104

15,310,900(円)

従来は、この様なアドバイス料は無くても設計事務所に設計業務を委託し、工事施工業者に発注することで工事は出来ていました。

今回のように県住宅供給公社のアドバイスを受けても、「設計事務所に設計業務を委託し、工事施工業者に発注すること」は何も変わっていません。

宮下町長は「役場には専門家がいないので平米単価などの相場が分からないから、県住宅供給公社に委託し、その判断に任せている。」ということだそうです。

一般消費者は相場が分からないからといってアドバイス料など絶対に払いません。消費者は費用をかけずに相場を調べています。

県住宅供給公社へのアドバイス料は責任逃れの為の無駄金です。

宮下町長、岡田副町長、役場担当者の皆様!!

自分の住宅を建てる時に県住宅供給公社にアドバイス料を支払いますか?

それにしても、「照明のLED交換」、「昇降口バリアフリー化」の為に、県住宅供給公社のアドバイスが必要ですか?(資料7) 相談するなら電気屋さんで大工さんでしょう? もしくは、従来から取引がある地元設計事務所ではないでしょうか?

【県住宅供給公社アドバイスの弊害!!】

元気センターの設計は基本設計と実施設計が分けられており、多くの時間と費用が増えました。今までは、設計は一括で発注されていました。また、解体工事も本体工事と一緒に発注すれば、費用は抑えられたはずです。

そして、元気センター解体工事の坪単価は約14万円でしたが、同時期に行われた元ボウリング場の一部解体工事は約7万/坪でした。

条件は、面積は元ボウリング場の方少し大きかったのですが、アスベスト建材の状況もほぼ同じで、ボウリング場は土間コンクリートの除去はありませんでしたが、残す部分と解体部分との工事が必要で、ほぼ同じと考えられます。

いくら公共工事だとしても、同じ法律の下での解体工事です。あまりにも、単価が違いすぎます。

ちなみに、昨年1月、異常に高い解体費の概算予算について加賀田町議会議員が県住宅供給公社に質問したところ、「松本城の横でも、長野市の市街地でも長野県の何処でも必ずできる価格で、現場は見ていない机上での価格だ。」という回答だったそうです。この、概算予算から始まった解体工事費が坪単価約14万円だったのです。酷い話です。

● 普通ではありえない！宮下町長自宅前4,100万円道路工事!!

【町民感情を全く考えない、「コロナ禍対策補助金申請」・「町長の部屋」に続く暴挙!!】

令和4年12月、「令和4年度 辺地対策事業 町道弥太沢線 道路改良工事」が約4,100万円で始まることになりました。これは宮下町長の家の前の道路です。

「町長は、在任中は町民感情を考え自分に関係する道路工事は控えるべきである。」これはある議員経験者の方の話です。

令和4年9月定例会で、松川町は周辺の町村と比較して、町道の整備が遅れているという話でした。また、多くの道路整備の要望が各地区から出ていますが、しかし、お金がないからという理由で町民には我慢させています。

さすがに、これもダメでしょう!!

● 恥ずかしく、情けない就任3年9カ月後の宮下町長発言

・令和4年9月、議会定例会で「3年半の宮下町長の実績は?」という質問に対して、宮下町長は「3年半かけて、住民の声を聴く町政にした。」と答えました。⇒未だかつて、「住民の声を聴かない」と言った町長はいません。

・令和4年12月、議会定例会で「来年4月の町長選に出馬するのか?」という質問に対して、「町に対する思いや行動力は誰にも負けない。」と答えました。⇒あなたの報酬は4年間で5,900万円、役場で一番の給料を取る最高責任者で、当たり前の話です。胸を張って言うことではないでしょう。

宮下町長!! 3年9カ月をかけて貴方はその「思いと行動力」で、一体、何をしたのですか?

3年9カ月経っても、このようなことしか言えない貴方に、

「松川町に対する思いや行動力」があるなどと、とても思えません!!

● 役場職員をダメにする宮下町長！日本一の職場はどこへ？

【役場職員のやる気を無くす県への課長派遣依頼!!】

宮下町長は副町長だけでなく、令和4年4月に県から県職員を課長職として派遣して貰いました。松川町政始まって以来、初の事です。

課長職は各業務の責任者です。課長の派遣依頼は、従来の県と町との交流とは全く違います。宮下町長は役場に課長職の人材がないとして、役場職員を見限って県にお願いしたのです。

町長は職員の能力を如何に引き出すことが出来るか、出してもらえるかが最大の職務です。今回の県への課長派遣依頼は、全ての役場職員のやる気を無くす最低の判断です。

【4年間、何もしなかった日本一の職場づくり!!】

平成31年の就任直後、全職員を集め、「日本一の職場にする」と宣言しました。

宮下町長は、令和4年3月、定例会一般質問で、この「日本一の職場にすることは、どうなっているのか」という質問に対して、「難しい」と軽く答えました。

同年12月、定例会一般質問での同じ質問に対して、「評価は難しい。モチベーションを上げるために、『何のために、誰のために仕事をしているのか』職員に理解させ、自らの仕事に生きがいを感じてもらおうことで、仕事が楽しいと思ってもらえるようにしていることが現状である。」と答えています。

役場職員の方で、「町のため、住民のために仕事している」ことを、知らない職員など一人もいません。このことが分かっているから、辛いこともあっても頑張っているのでしょう。

令和5年1月、何人かの役場職員の方に「日本一の職場発言」について聞いたところ、皆が就任時の「日本一の職場発言」以降、一度も宮下町長から聞いたことは無い、ということでした。

結局、宮下町長は4年間、職員のために何もしなかったのです。

**「何のために、誰のために仕事しているのか」分かっているのは
宮下町長!! 貴方だけではないでしょうか。**

● モラルも品性も無いプチ独裁者？宮下智博町長の本性!!

【追及を逃れる為にまちづくり懇談会のルールを変えた宮下町長!!】

私達は、町長就任直後の令和元年8月6日、「まちづくり懇談会」を通じて、宮下町長の嘘、ゴマカシに気づき、その後も、「まちづくり懇談会」で追及し、意見広告を出してきました。

令和4年5月のまちづくり懇談会の後、9月に2度目のまちづくり懇談会を申し込んだところ、「要綱ができ、年1回しか受け付けない。ネット上に載っている。」と言って、拒否したのです。

要綱の作成は議会の承認がいらぬそうで、この要綱作成は議会に全く報告されていません。後に、分かった事ですが、ネット上に載せたのは私達が2度目のまちづくり懇談会を申し込んだ後でした。

実は、5月のまちづくり懇談会で、今後の選挙に影響する「平成30年8月の宮下町長の嘘」を追及しており、9月にはその続きを行う予定でした。宮下町長はこのことを逃れる為にルールを変えたのでしょう。

宮下町長が批判していた深津前町長でさえ、このような権力の使い方はしませんでした。しかし、これが宮下町長の本性なのでしょう。

【商工会長の批判意見に「商工会の補助金見直しをする」と恫喝した宮下町長!!】

令和4年12月21日、宮下町長は町長表彰後、小澤商工会長に「商工会の補助金を見直す」と、唐突に言ったそうです。小澤商工会長が「下げるとのことか?」と問いただしたところ、肯定も否定もしなかったそうです。

実は令和4年11月1日の産業懇談会で、小澤商工会長は厳しい批判意見を宮下町長に言ったそうです。私達は、宮下町長はその腹いせに、批判意見を言った小澤商工会長に対して「商工会の補助金見直しをする」と恫喝したのだと思っています。

立ち話ですのような話ではないでしょう。酷い話です。

町長が補助金という権限を使い、批判意見を抑え込もうなど、私達の松川町であってはならないことです。しかし、これが宮下町長の本性なのです。

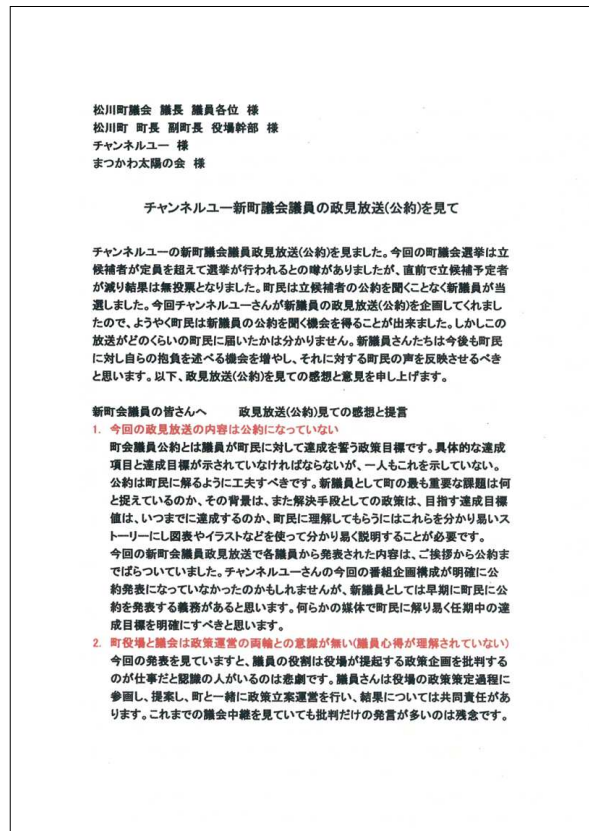
● 子供を人質にとる!! 卑劣な脅迫文のその後

【同一人物と思われる3つの町長を応援する匿名文!!】(参考：意見広告12の14、15頁)

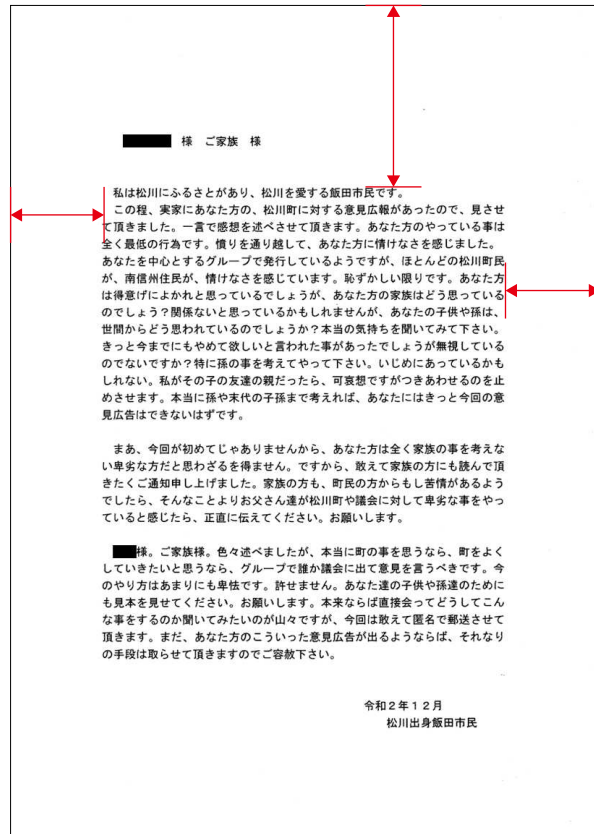
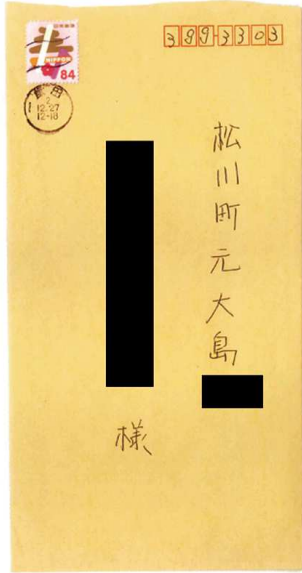
資料8は町長の支援者が出したと思われる3つの匿名文です。①は令和2年12月22日付、まつかわ太陽の会宛の匿名文、②は令和2年12月27日付、子供を人質にとる、卑劣な脅迫文、③は令和4年7月5日付、松川町議会宛匿名文です。

資料8：町長の支援者が出したと思われる3つの匿名文

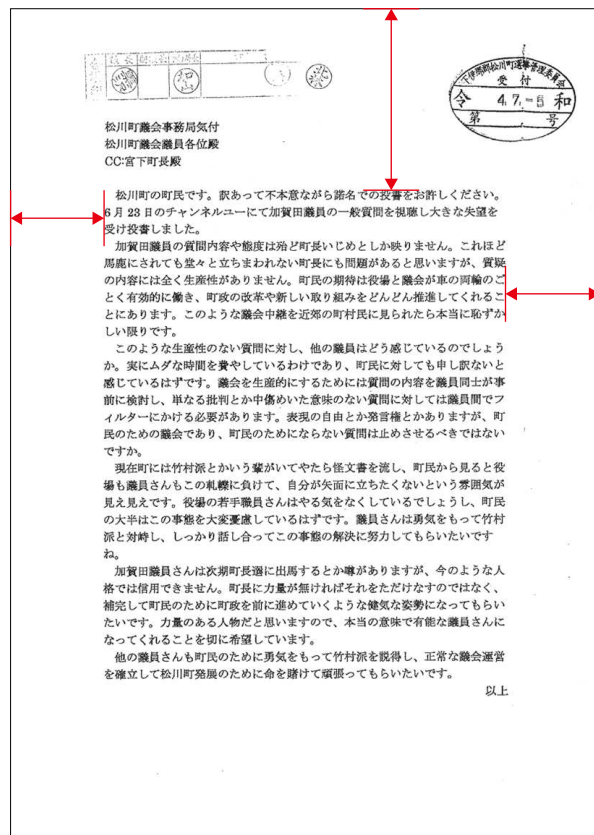
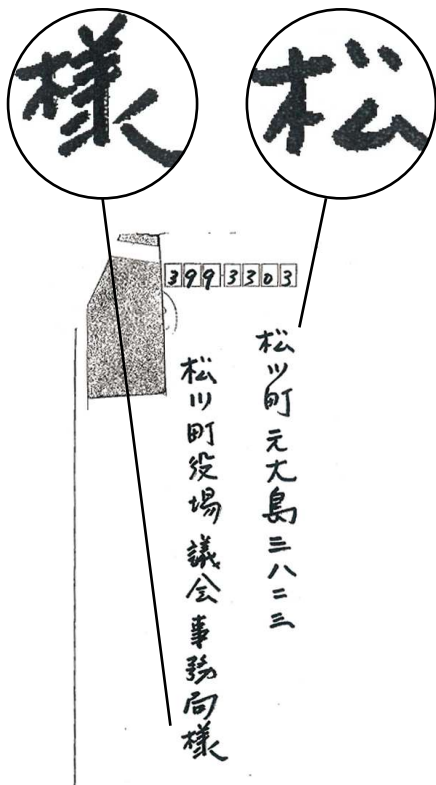
① 令和2年12月22日付、まつかわ太陽の会宛の匿名文



② 令和2年12月27日付、は子供を人質にとる、卑劣な脅迫文



③ 令和4年7月5日付、松川町議会宛匿名文



以下で、同一人物と思われる根拠を示します。

ア 匿名文①と匿名文③の封筒の宛名の松川町の「松」「様」の筆跡が同じです。

故に、①と③は同一人物、または同一グループによるものです。

イ 脅迫文②と匿名文③の書き出し位置や左右の余白が全く同じで、フォント以外のフォーマットが同じです。また、文章の書き方もよく似ており、②と③は同一人物、または同一グループによるものと推測できます。

ウ ア、イより、匿名文①、脅迫文②および匿名文③は同一人物、または同一グループによるものと推測できます。

以上より、私達は二つの宮下町長を支援する匿名文と、子供を人質にとる卑劣な脅迫文の犯人は、同一人物、または同一グループであると確信しています。

【脅迫文を容認し、頑なに犯人を隠そうとする宮下町長!!】

私達は令和4年11月24日の面談で、宮下町長に議会事務局宛に来た匿名文③を脅迫文②の犯人と同一人物の可能性が高いということを説明し、出所を調べてほしいと求めました。

しかし、私達が何度も調べるようお願いしても、宮下町長は頑なに「調べない」と拒否しました。

私達はこの時の拒否する姿勢の異常さから判断して、「宮下町長はこの卑劣な犯人を知っている」と確信しています。

宮下町長へ!!

私達が7回の意見広告で痛烈に批判した深津前町政でさえ、私達の子供達を人質とした脅迫文の様な卑劣な行為はありませんでした。あなたはこの3つの文章に関りが無いのであれば調べるべきでしょう。

松川町政史上、最悪かつ最低の宮下町政4年間!!

正義も、ビジョンも、何もない! ただ、なりたかっただけの宮下町長!!

無駄金を使い、そして、何もしなかった!!

・「大危機!!児童生徒数24.4%減」に危機感無く、無関心です。・元気センターは2億円が無計画に何度も何度も増額され7億円になりそうです。そして、いつ出来るか分かりません。・旧青年の家は4年間かけて再度、再々度の検討をし、委託費年額550万円付きで元に戻りました。・「県道上片桐停車場線バイパス」の重要性を認識せず、放棄しようとしています。・宮下町長は不正入札の裁判で、何があっても不正を認めません。不正追及の約束は、約束した事さえごまかそうとしています。・コロナ禍対策は後手後手です。・副町長、生涯学習課長、県住宅供給公社への費用、2年間約3,500万円は町民の為の費用ではなく、宮下町長の責任逃れの為の費用でしょう。・権力を不当に利用しています。・子供を人質に取ることで言論の自由(意見広告)を封殺する卑劣な脅迫文も容認しています。・リニアの残土問題は後手後手です。・これまで出来たことは、自分の為のコロナ禍対策補助金申請と自分の為のチャンネル・ユース番組「町長の部屋」、そして、自宅前の道路工事です。

町民の皆様へ!!

選挙で選ばれた宮下町長は

絶大な権限を持っています。

やはり、最後は選挙だけです。

全ては、町民による選択の日、4月23日です。

まつかわ太陽の会 (事務局: 竹村工業株式会社内)
TEL: 0265-36-6213 E-mail: info@matsukawataiyo.org

使用した資料は、下記アドレスにて詳しくご覧いただくことができます。
まつかわ太陽の会 資料室 <http://matsukawataiyo.org>